近代的軍制の成立（徴兵告諭）

徴兵告諭

我朝上古ノ制海内擧テ兵ナラサルハナシ有事ノ日天子ノカ元帥トナリ丁壯兵役ニ堪ユル者ヲ募リ以テ不服ヲ征ス役ヲ解キ家ニ歸レハ農タリ工タリ又商賈タリ固ヨリ後世ノ雙刀ヲ帶ヒ武士ト稱シ抗顔坐食シ甚シキニ至テハ人ヲ殺シ官其罪ヲ問ハサレ者ノ如キニ非ス抑

神武天皇珍彦ヲ以テ葛城ノ國造トナセシヨリ爾後軍國ヲ設ケ衛士防人ノ制ヲ定メ神龜天平ノ際ニ至リ六府二鎮ノ設ケ始テ備ル保元平治以後朝綱頹弛兵權終ニ武門ノ手ニ墜テ國ハ封建ノ勢ヲ爲シ人ハ兵農ノ別ヲ爲ス降テ後世ニ至リ名分全ク泯没シ其弊勝テ言可カラス然ルニ大政維新列藩版圖ヲ奉還シ辛未ノ歲ニ及ヒ遠ク郡縣ノ古ニ復ス世襲坐食ノ士ハ其祿ヲ減シ刀劍ヲ脱スルヲ許シ四民漸ク自由ノ權ヲ得セシメントトス是上下ヲ平均シ人權ヲ齊一ニスル道ニシテ則チ兵農ヲ合一ニスル筈ナリ是ニ於テ士ハ從前ノ士ニ非ズ民ハ從前ノ民ニアラス均シク 皇國一般ノ民

ニシテ國ニ報スルノ道モ固ヨリ其別ナカルヘシ凡ソ天地ノ間一事一物トシテ稅アラサルハナシ以テ國用ニ充ツ然ラハ則チ人タルモノ固ヨリ心力ヲ盡シ國ニ報セサル可ラス西人之ヲ稱シテ血稅ト云フ其生血ヲ以テ國ニ報スルノ謂ナリ且ツ國家ニ災害アレハ人々其災害ノ一分ヲ受サルヲ得ス是故ニ人々心力ヲ盡シ國家ノ災害ヲ防クハ則チ自己ノ災害ヲ防クノ基タルヲ知ルヘシ苟モ國アレハ則チ兵備アリ兵備アレハ則チ人々其役ニ就サルヲ得ス是ニ由テ之ヲ觀レハ民兵ノ法タル固ヨリ天然ノ理ニシテ偶然作意ノ法ニ非ス然面シテ其制ノ如キハ古今ヲ斟酌シ時ト宜キ制セサルヘカラス西洋諸國數百年來研究實踐以テ兵制ヲ定ム故ヲ以テ其法縹メテ精密ナリ然レトモ政體地理ノ異ナル悉ク之ヲ用フ可カラス故ニ今其長スル所ヲ取り古昔ノ軍制ヲ補ヒ海陸二軍ヲ備ヘ全國四民男兒二十歳ニ至ル者ハ盡ク兵籍ニ編入シ以テ緩急ノ用ニ備フヘシ郷長里正厚ク此御趣意ヲ奉シ徴兵令ニ依リ民庶ヲ説諭シ國家保護ノ大本ヲ知ラシムヘキモノ也

明治五年壬申十一月廿八日 太政官

解説

明治政府は藩を廃止するとともに、諸藩の軍隊を解体しました。近代的な軍隊を作るため、1872（明治5）年に国民皆兵をうたった徴兵告諭を発表し、翌年、徴兵令を公布しました。これにより、満20歳以上の男性に、身分に関係なく3年間の兵役を課す新しい軍制がしかれました。

「徴兵告諭」の文中に、「人タルモノ固ヨリ心カラ尽シ国ニ報セサル可ラス。西人之ヲ稱シテ血稅ト云フ。其生血ヲ以テ国ニ報スルノ謂ナリ」という箇所があります。人々の中には、徴兵を意味する「生血ヲ以テ国ニ報スル」の部分をとられると誤解する者もありました。徴兵により労働力を奪われることは家にとって大きな負担であり、徴兵に反対する一揆（血稅一揆、徴兵令反対一揆）が各地で起こりました。

* 県庁戦前A総務219「徴兵令（刊）」